

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年1月31日現在

今月の重点活動

岐阜県普及活動研究会にて、アスパラガスの普及活動を発表！！

1月7日に県主催の普及活動セミナーにおいて、羽島市等でのアスパラガス普及活動を発表した。ソフト・ハードの県単独事業を活用し、技術実証、流通改善、施設整備等について、普及指導員の普及手法と関係機関との連携により、生産者数、面積が年々増加し、市場（消費者）評価を得てきた経過などの活動を報告した。産地化に向けては、困難な壁を乗り越えてきた普及活動や発表方法の映像、音響を活用するなど、会場から感心する声も聴こえた。



普及活動研究会での発表

主要農作物の生産振興

■ふるさとのじまん農産物づくり（アスパラガス）

羽島市で新規栽培者のハウス建設中

新規栽培者3戸が年末から資材の搬入が始まり、ハウス建設作業が急ピッチで進められている。3月末までにハウス建設を終える予定である。今までは、業者に全て建設を依頼していたが、建設コスト低減のため、自らがハウスを建設を行えるようJA職員がハウス業者の指導を受けて建設を進めている。農業普及課は、アスパラガスのハウス仕様など建設講習会において支援をしている。



新規栽培者のハウス建設

来年度に向け、中古ハウス利用やフルオープンハウスなど設備費軽減のための取り組みを行っていくこととしている。

■いちご パッキングセンター試験稼働、順調！！

12月17日からいちごパッキングセンターが稼働し1ヶ月が経過した。年内はパートさんの作業スピードは上がらず、1人1時間あたり10パック程度であったが、年明け少しづつ慣れてきて20パック/人/時間になってきた。また、パックの荷姿も良くなっており順調である。次年度以降の本格導入に向け、JAと農業普及課で定期的な検証、検討を行っている。



パッキングセンターでの作業

岐阜市のいちご部会青年部、元気！！（JAぎふ岐阜市園芸振興会いちご部会青年部活動）

青年部活動として、販売用ポップの写真撮影を行ったり、1月15日に「いちごの日」として、JAぎふ直売所「おんさい広場」で、いちごの即売と試食会を行い、岐阜いちごのPRを行った。また、岐阜市商工会との連携で、加工品開発に取り組んでおり、「いちごの葉を利用した化粧水」「ソフトクリームに使う加工用いちご」が候補になっている。農商工連携では、原材料の供給を行いつつ、商工業者との調整を行っている。



青年部の消費宣伝活動

いちご就農体感ツアー開催される

1月29日に就農を検討している方の就農意欲を高めるため、県主催の「いちご就農体感ツアー」が16名の参加により管内で開催された。（応募者32名の抽選）

ツアーでは、いちごの生産現場を理解してもらうため、いちごハウスとJA全農岐阜の研修施設等を視察し、その後、参加者の相談会を開催し、収益、初期投資等経営に関する相談が相次いだ。



ツアー参加者に説明

農業普及課は産地概要や栽培方法、新規就農者の取り組みを紹介などの支援を行った。

■えだまめ 平成23年産に向けた取り組み

1月12日に、JAぎふえだまめ部会全体研修会が部会員約200人の出席で盛大に開催された。研修内容は、信頼される産地を目指すため、「GAPの取り組みと課題（農業普及課）」「農薬の基礎知識とえだまめの害虫（農業技術課）」についての研修であった。また、平成23年産に向けた栽培研修会は1～2月にかけて



各支部で行っている。

研修会風景

■祝大根 “当てにされる産地”に育つ

出荷実績は、出荷量前年比101%で販売金額は過去最高の結果で終了した。農業普及課として栽培指導の他、生育調査等に基づく出荷予測を支援しており、その結果、市場評価も高く、“当てにされる産地”として出荷量増への期待が大きくなっている。

■にんじん 春夏にんじんの出荷目標を提案！！

1月20日、にんじん部会主催の「平成23年春夏にんじん栽培講習会」において、25万ケース、約3億7千万円の目標を提案し、2月下旬までしっかり播種するよう部会員に促した。また、この講習会において、部会員の販売実績の分析結果をもとに、収益をアップさせる考え方を提案し、部会員のやる気を醸成した。

■柿 かきの間伐・せん定真っ盛り！

管内の各振興会では定年帰農者や婦人部（女性部）等のせん定講習会を行い、全体の技術レベルの向上に努めている。また、間伐のマーキング等の支援を行い、間伐の徹底を図っている。現在、各産地では間伐・せん定の最盛期となっており、2月中旬頃まで続く。糸貫柿振興会、瑞穂市柿振興会では1月31日までに間伐検査を実施した。

■来年産に向けた選果場整備の準備進む（本巢市）

J Aぎふは糸貫選果場と真正選果場を合併して、糸貫選果場を改装し、新たな選果機の導入を計画している。12月末に糸貫・真正柿振興会役員に対し説明会が開かれ、次年度9月竣工に向けて動き出した。それに伴い、両振興会の合併検討委員会が随時開催されていく予定である。

担い手の育成・確保

■女性農業経営アドバイザー

■食農教育活動（産消交流）が開催される

岐阜地域の女性農業経営アドバイザーは、1月13日に本巢市土貴野小学5年生を対象に、農業の理解と旬の農産物の味を知って貰うために交流会を開催した。5年生はアドバイザーが生産した野菜や味噌等を使って「豚汁と温野菜サラダ」を調理を行い、地元指導農業士の支援で生産したお米でおにぎりを作り、全校生徒に配った。午後はアドバイザーから野菜、果樹、花、畜産の部門で生産について実物展示やクイズで楽しく農業を学んだ。農業普及課ではこの活動を支援した。



小学5年生との交流会

■集落営農組織等 岐阜市水田担い手協議会研修会開催される

1月27日に、岐阜市の水田農業の担い手が一堂に会した勉強会が開催された。標記協議会は今年度、担い手への農地集積と経営安定を目的に設立された組織で、研修会では、戸別所得補償制度の説明と農業普及課から「ハツシモ岐阜SLの品質対策」「湛水直播[鉄コーティング]」について指導を行った。



研修会風景

■岐阜地域農業改良普及事業推進協議会

■これからの野菜の担い手像を学ぶ（企業参入等）

1月28日に市町・農協・農業共済組合で構成する標記協議会の現地視察研修会を開催した。研修先は、野菜の生産から加工・販売まで手がける岐阜市の農業生産法人「わかば農園（株）」と、都市近郊地域で遊休農地を集積し米麦・露地野菜生産を行い販売している「（株）扶桑農産」で、カット野菜の生産・販売の取り組みや、若い従業員を活用した経営の取り組みについて視察した。参加者からは今後の農業指導・施策に役立てようと、積極的な質問が出された。



「天空の畑」

地域の動き等

■岐阜市 岐阜いちごからできた特産品18品お披露目（岐阜商工会議所）

岐阜市商工会議所が、国の支援を受けて、岐阜市の特産農産物「えだまめ」「いちご」の商品開発プロジェクトに取り組んでいる。1月26日に、市内で生産された「いちご」を活用し商品提案が18の企業からあり、試食会が開催された。この中で商品化可能な商品が選抜され、来年のぎふ清流国体に発表できることを期待されている。